

1

農林水産統計調査とは



統計とは？

- ・一定の条件の集団について調べた結果を、集計・加工して得られた数値のことを「統計」といいます。

農林水産統計調査とは？

- ・農林水産業に関連する統計を調査するもので、私たちの食と農を支える各種施策の推進の基礎となる重要な情報インフラです。

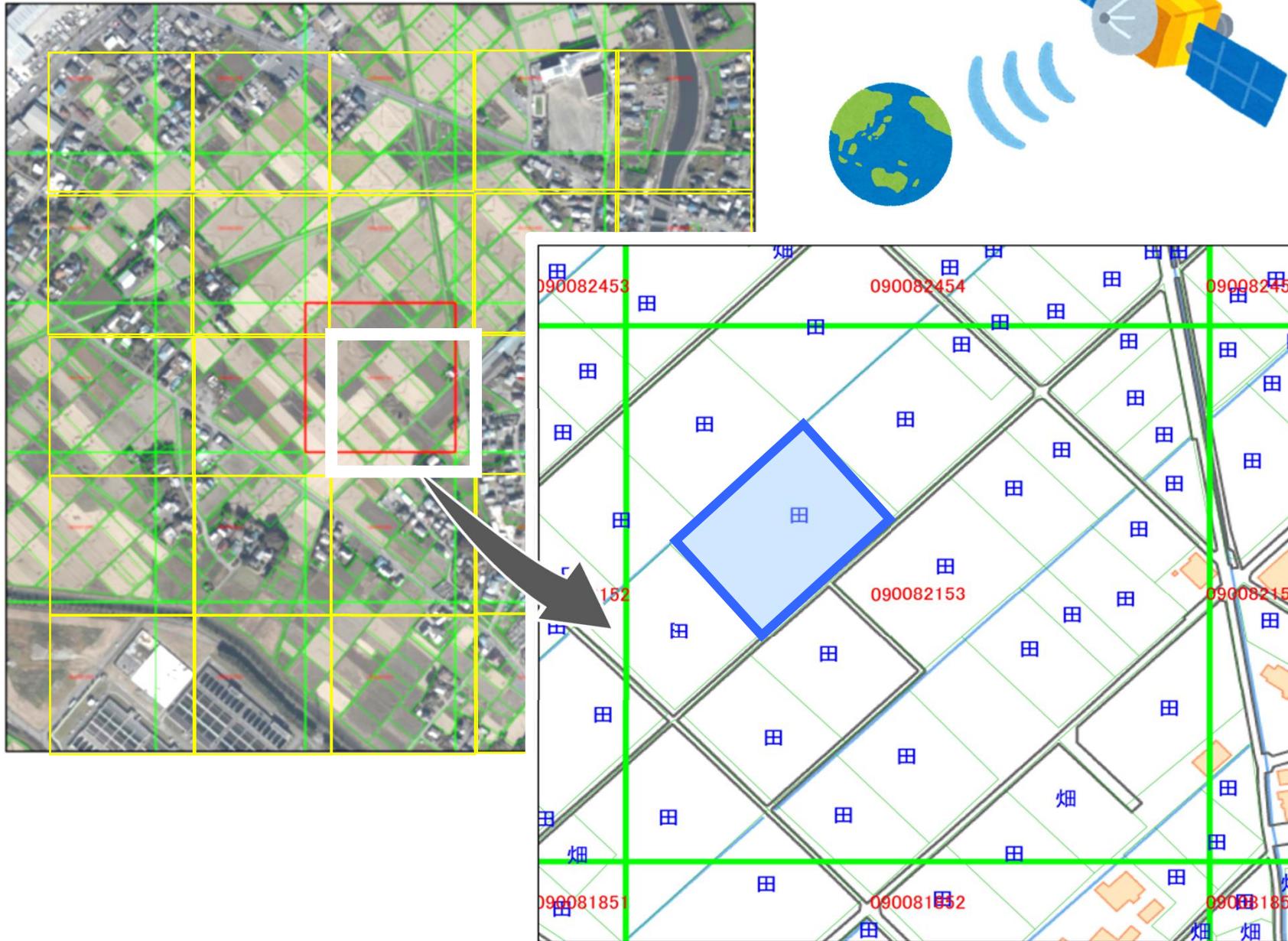


調査方法は？

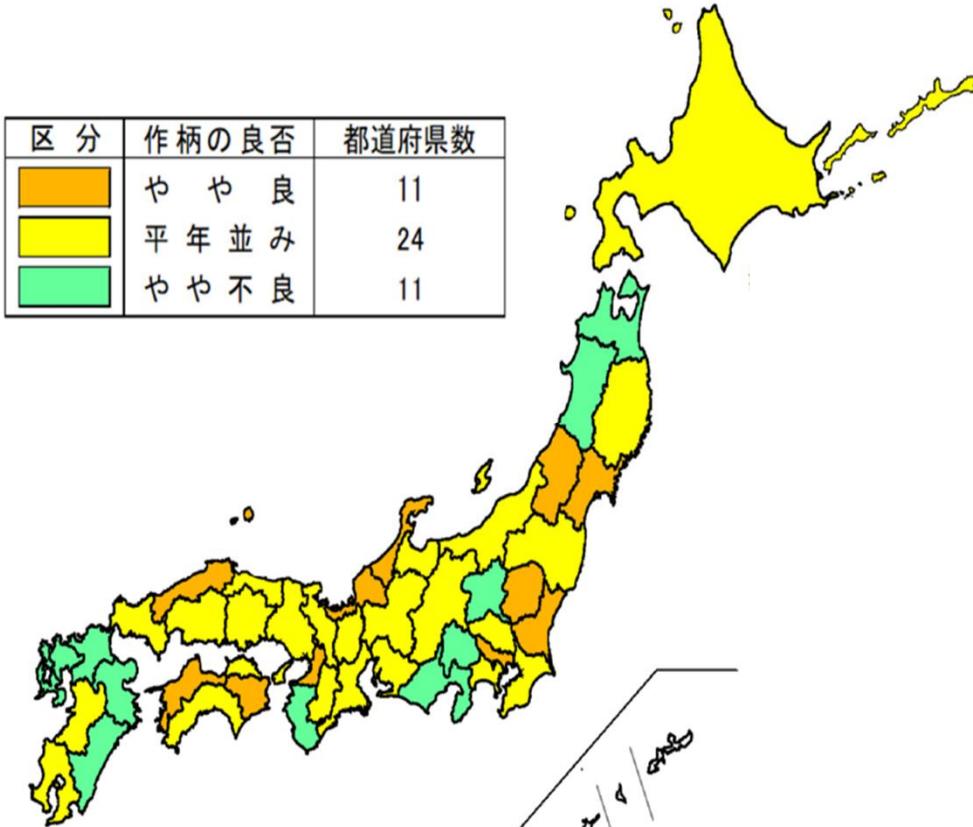
- ・調査の種類によって、調査員等による面接調査や、郵送またはオンラインによる自計申告調査、農林業センサス等の全数調査のほか、実測を行う調査もあります。
- ・今回は、**実測を行う調査のうち、お米の生産状況にかかる調査（水稻収穫量調査）について具体的にご紹介します。**

2

調査ほ場の抽出 (人工衛星データなどの先進技術を利用)



区分	作柄の良否	都道府県数
■	やや良	11
■	平年並み	24
■	やや不良	11

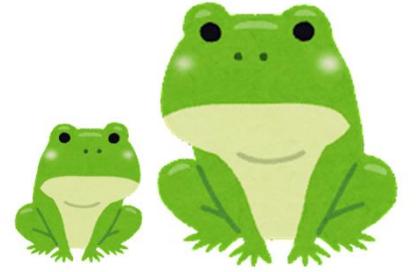


・衛星画像を用いて全国の農地を区分し、調査の対象となる農地を抽出します。

・8月下旬公表の「水稻の8月15日現在における10a当たり収量の前年比見込み」では、『作柄の良否』を実測調査ではなく、気象データ（降水量、気温、日照時間、風速等）及び人工衛星データ（降水量、地表面温度、日射量、植生指数等）から作成される予測式に基づき予測しています。

3

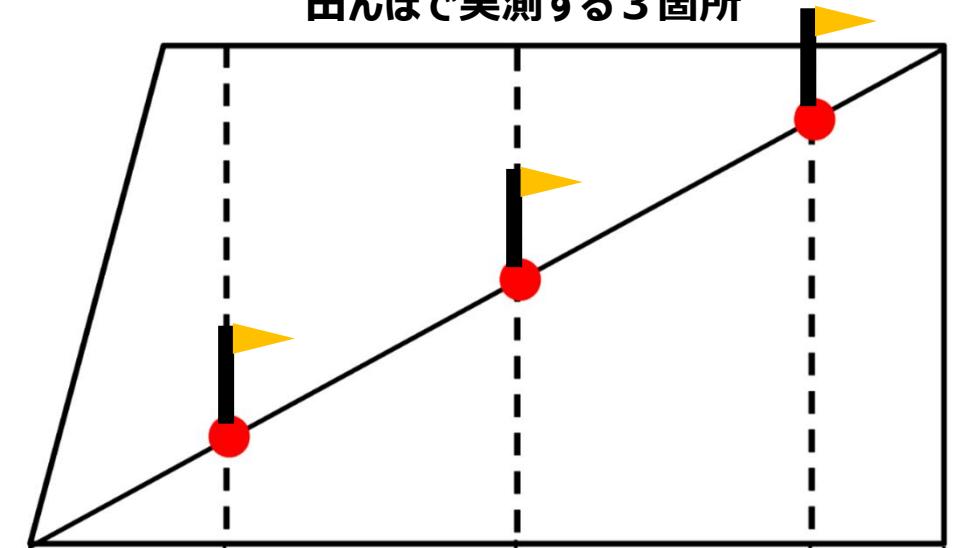
調査ほ場での実測調査（その1）



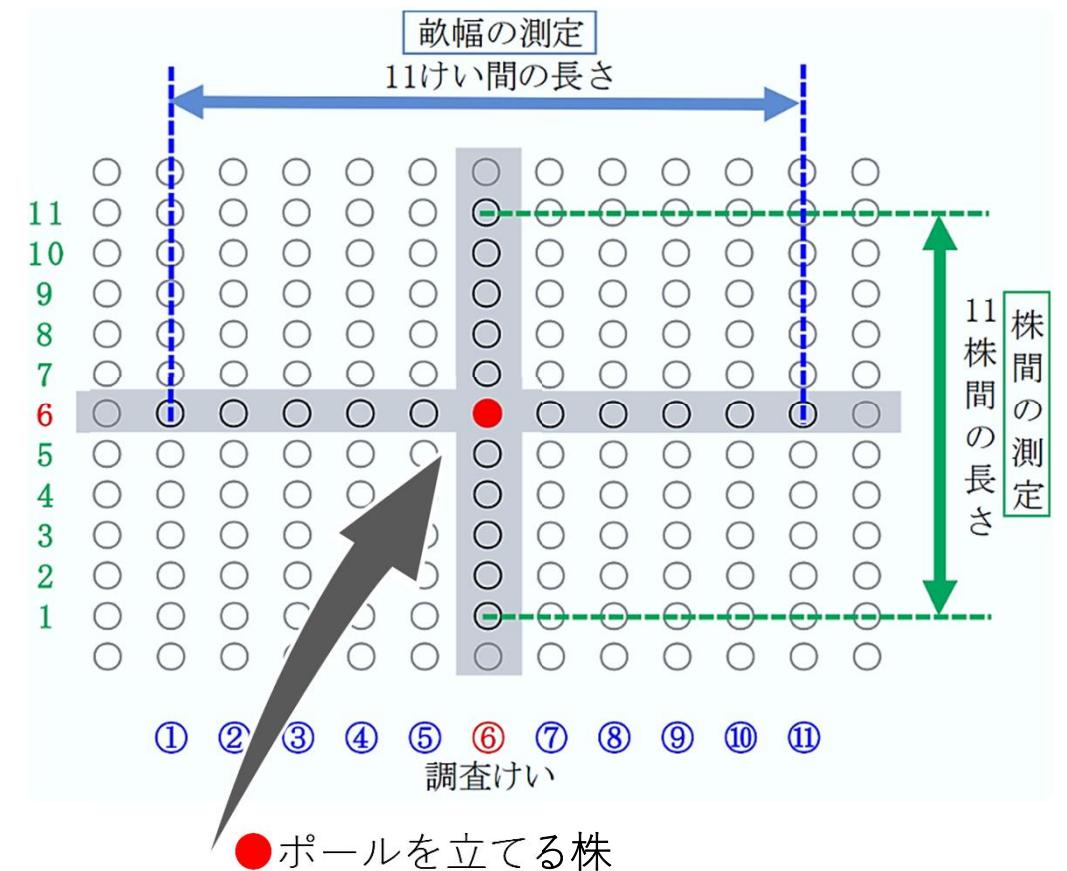
株間を測っている様子



田んぼで実測する3箇所



- お米の収穫量を予想するため、3箇所に設置したポールを中心にして、株の間隔などを測ります。



4

調査ほ場での実測調査（その2）



穂数を数えている様子



『有効穂』は、
実が入っている穂の
ことです。

『無効穂』は、
病虫害などの影響に
より、実が入って
いない穂のことです。

もみ数を数えている様子



- ・職員または調査員が田に立ち入り、ポールのある株を中心に、10株それぞれの『穂数』を計測します。

- ・調査株ごとに、有効穂の『もみ数』を数えます。



坪刈りの様子



- 3箇所ポールからそれぞれ1㎡内にある株を全て刈り取ります。
(※ 1㎡ × 3箇所 = 約1坪)
これを、『坪刈り調査』と呼んでいます。

脱穀の様子



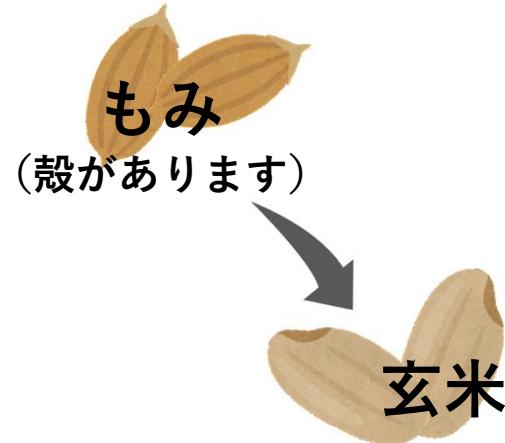
- 刈取った稲を『脱穀機』で脱穀します。

6

「坪刈り」した稲の調製作業



もみすり作業



段ぶるい作業



均分器での作業



200 g の試料

農林水産省

- ・ 乾燥したもみを『もみすり機』で『玄米』にして、『均分器』を使い200 g の試料を用意します。

※『玄米』とは、粒の大きさが、1.70mm以上のもの。

- ・ この試料を用いて、『段ぶるい機』で一定の粒の大きさごと（くず米、1.70、1.75、1.80、1.85、1.90、1.95、2.00、2.10、2.20mm）に分けて玄米の重量を計測します。

7

水稲収穫量調査の見直しについて ～生産者等の収穫量データの活用～



見直しの詳細は
こちらから

▶約8,000筆の坪刈り調査に加え、令和7～8年産において、試行的に生産者等から収穫量データを収集するほか、JA等の乾燥調製施設のデータについて統計的に活用可能か検証します。

生産者等の収穫量データの本格導入

令和7年産

対象面積 約2千ha

坪刈り

約8,000筆
(約2千ha)

約126万ha分の
単収を推計

全国の土地を母集団とした抽出調査

生産者等の収穫量データを検証し、単収の異常値を確認
局地的な被害を把握し、坪刈りデータを補完

試行調査 1回目

経営体
(稲作経営者会議等)
約600経営体 (約2.6万ha)

JA等の乾燥調製施設

令和8年産

対象面積 約2千ha

坪刈り

約8,000筆
(約2千ha)

約126万ha分の
単収を推計

全国の土地を母集団とした抽出調査

試行調査 2回目

大規模経営体 (50ha以上を想定)
約1,100経営体 全数調査
(約9.4万ha)

中小規模経営体
約4,400経営体 (約8千ha)

JA等の乾燥調製施設

令和9年産

対象面積 約13.0万ha

大規模経営体

(50ha以上を想定)
約1,100経営体 全数調査
(約9.4万ha)

中小規模経営体
約20,000経営体
(約3.6万ha)

約117万ha分の
単収を推計

全国の経営体を
母集団とした
抽出調査

坪刈り
約5千筆

生産者等の収穫量データに基づく
調査手法に移行し、坪刈りで補完

本体調査

主食用
126万ha
(6年産)

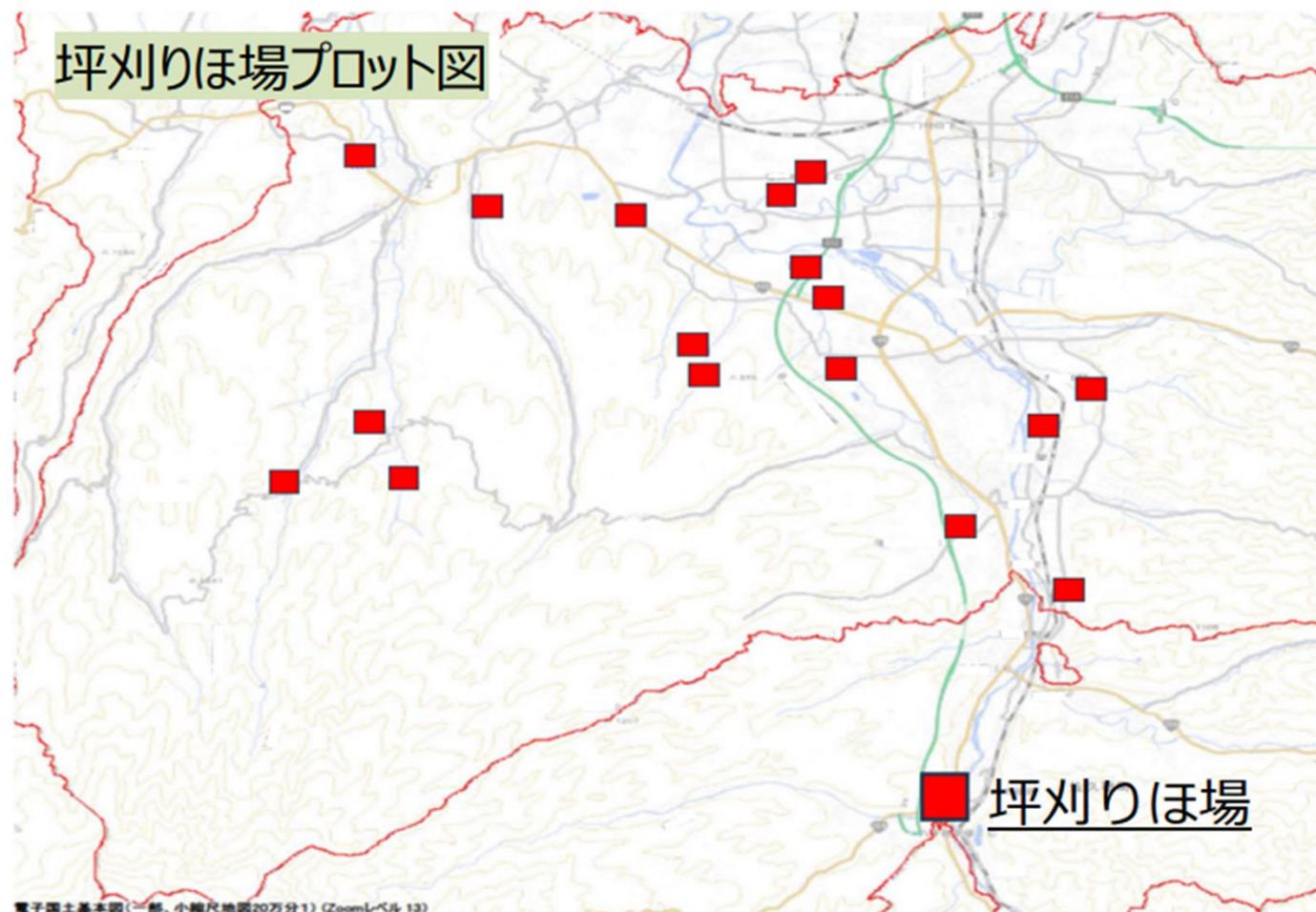
試行調査

水稻収穫量調査の見直しについて

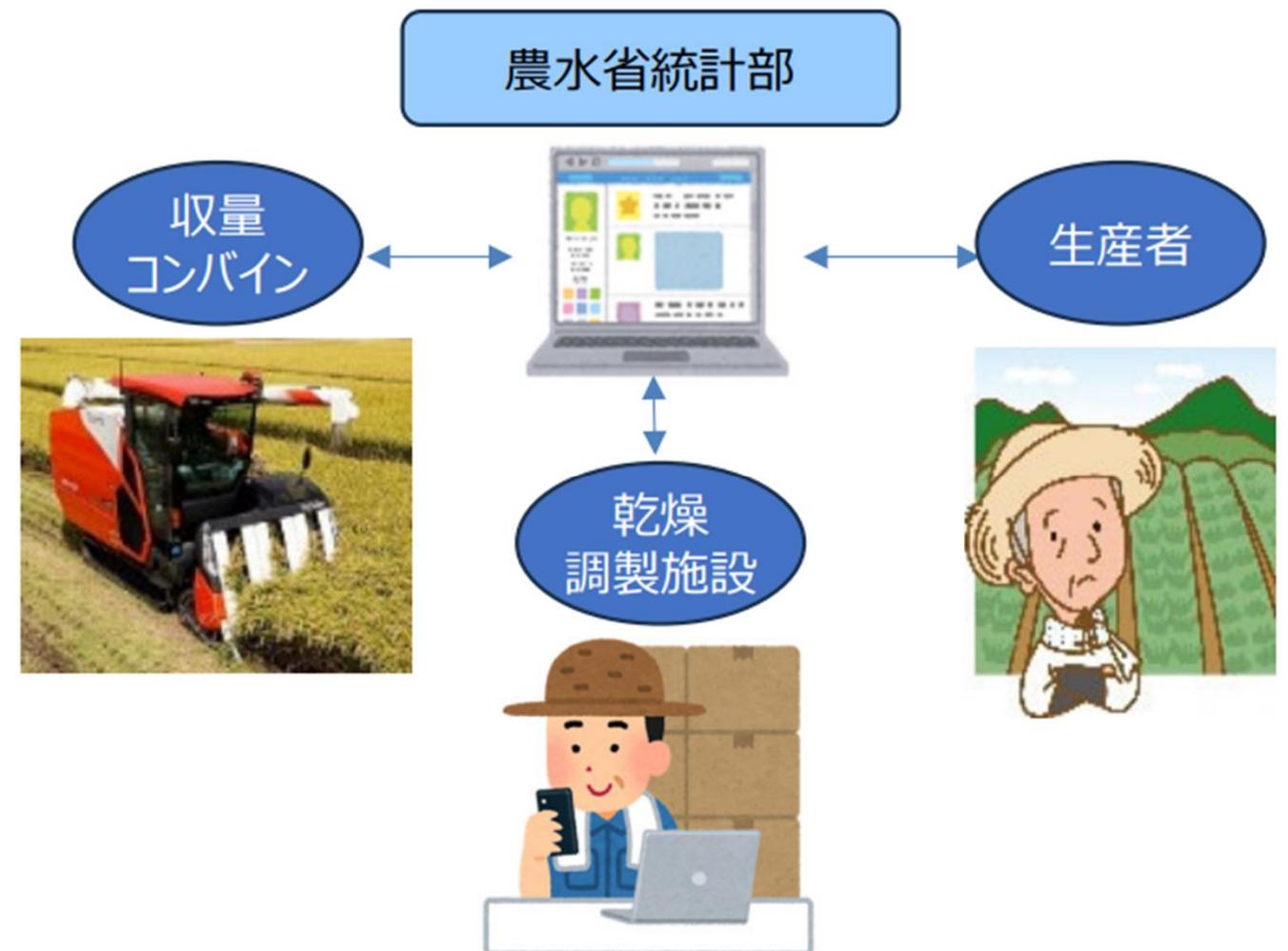
～生産現場からの情報収集の強化～

- ▶ 坪刈りほ場の場所を関係機関に情報提供し、気象や病虫害の被害情報等をきめ細やかに収集し、調査結果に反映することで、調査精度を向上していきます。
- ▶ 令和7年産から県や農業団体等の関係機関からの情報収集を強化するほか、令和8年産から生産者からのリアルタイムデータの収集・活用を検討します。

○地図に坪刈りほ場をプロットし、関係機関（県、JA、農業共済）に提供。調査時期ごとの意見交換を通じて、坪刈り調査が実施されない地域の被害による減収を着実に把握し、調査結果に反映します。



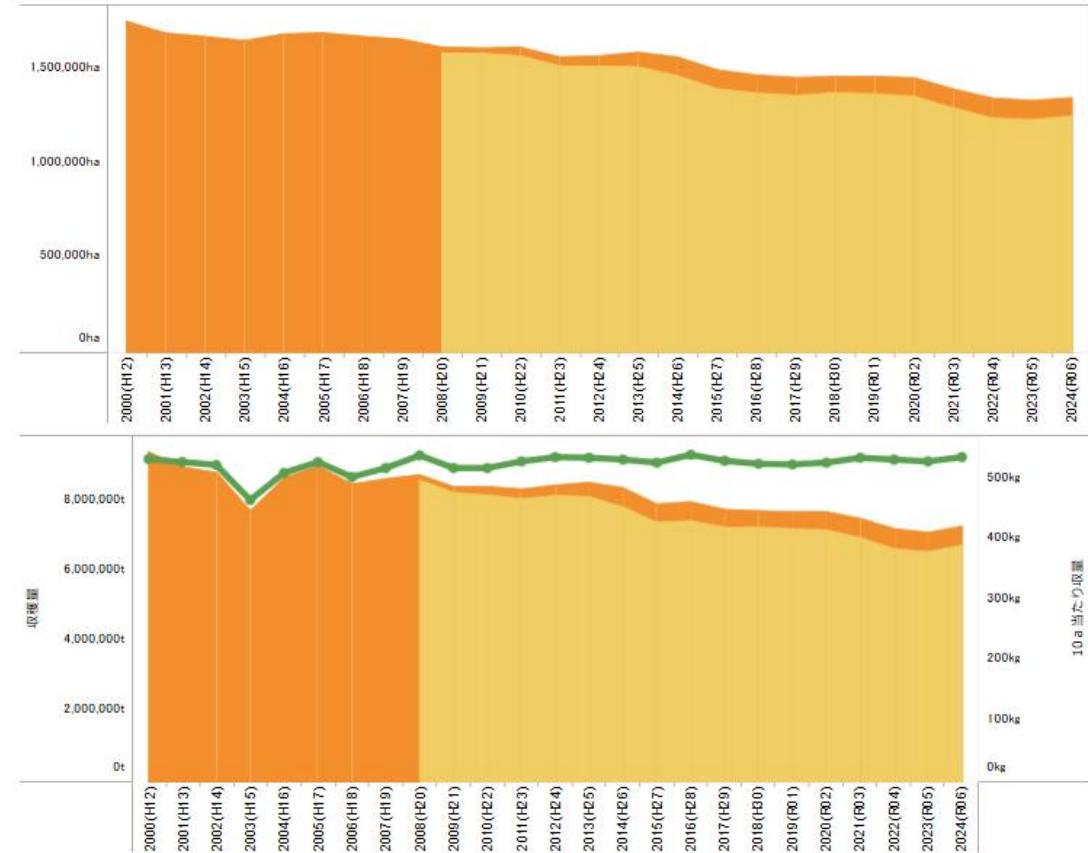
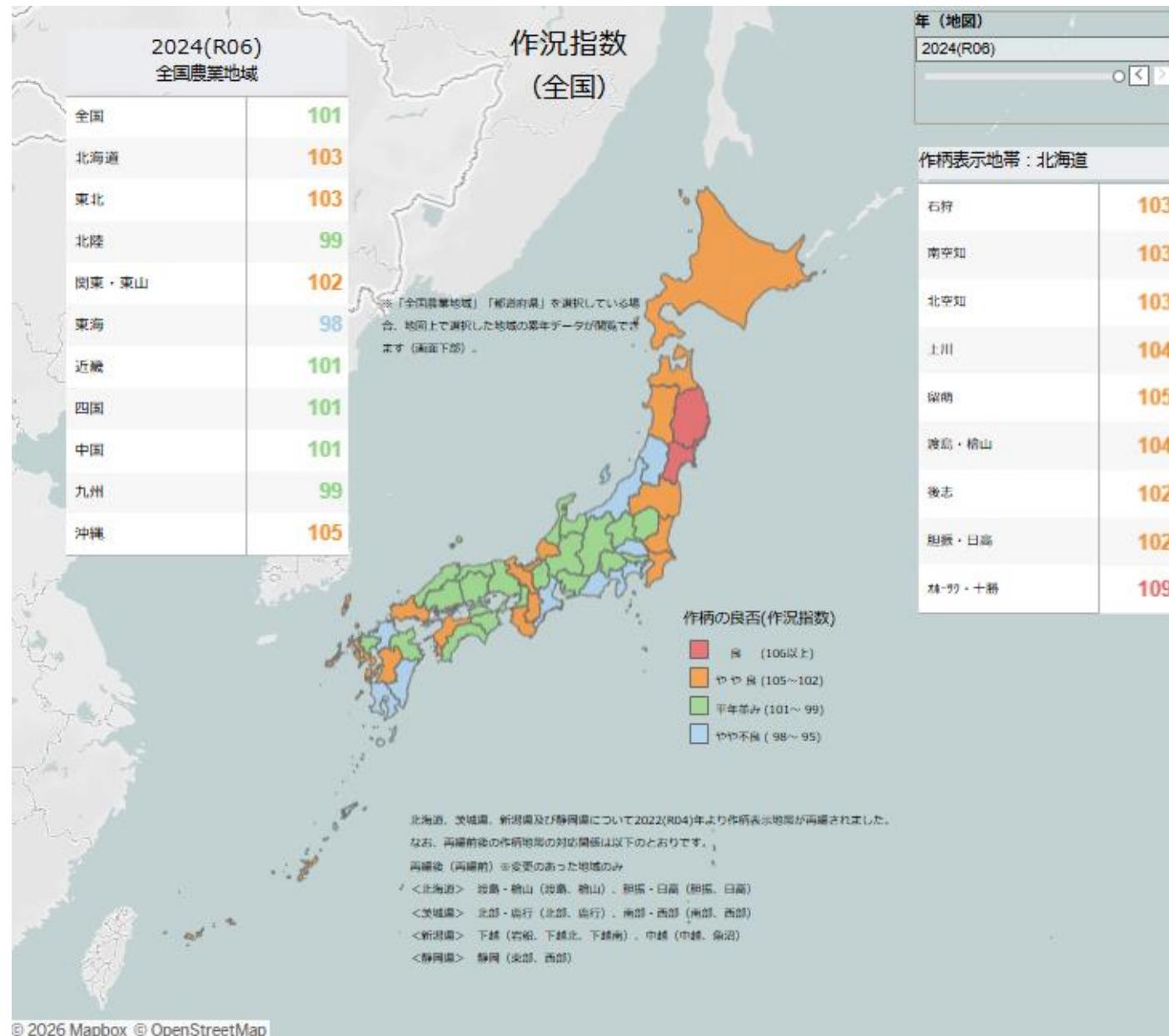
○大規模生産者等からの収量コンバインの収穫量や高温障害等の気象被害の状況、カメムシ等による病虫害の状況などのデータを提供いただき、調査結果へ反映する仕組みを検討します。



調査ほ場での実測調査の結果 (水稲収穫量調査)



- パネル3～9のような実測調査等により、
以下のように、お米の生産状況を明らかにしています。



- ◆ 『農林水産省の統計』全般についてはこちら
- ◆ 本ページのグラフの詳細については、『MAFF統計ダッシュボード』をご覧ください
- ◆ 農林水産省を含む**政府の統計結果は**政府統計ポータルサイト『e-Stat』で閲覧できます



資料：農林水産省統計部「MAFF統計ダッシュボード」より抜粋

農林水産統計調査の分類について

農林水産省では、私たちの食と農を支える各種施策の推進の基礎となる農林水産統計調査を実施しています。農林水産統計は、国民のための「公共財」、農林水産政策を支える「情報インフラ」です。

把握事項

農林水産物の生産状況の把握
 ・耕地面積、収穫量、単収、被害
 ・家畜の飼養頭羽数
 ・木材、製材
 ・漁獲、養殖 等

農林漁業経営の把握
 ・農業、林業、漁業経営収支
 ・農畜産物の生産コスト
 ・農産物、農業生産資材の価格動向 等

農林水産業従事者の構造及び
 農山村漁村地域の実態の把握
 ・農業、林業、漁業就業者
 ・新規就農者の実態 等

農林水産物の流通・加工及び消費
 の状況の把握
 ・青果物等の市況、卸売数量、価格
 ・牛乳・乳製品の生産量
 ・食品の廃棄や食べ残しの実態 等

統計調査

○作物統計調査
 ○畜産統計調査
 ○木材統計調査
 ○海面漁業生産統計調査 等

○農業経営統計調査
 ○林業経営統計調査
 ○漁業経営統計調査
 ○農業物価統計調査 等

○新規就農者調査
 ○農業構造動態調査 等

○青果物卸売市場調査
 ○牛乳乳製品統計調査
 ○食品循環資源の再生利用等
 実態調査 等

利活用

政策目標の設定と評価根拠

【食料・農業・農村基本計画】
 農地面積目標の策定に作物
 統計調査の**耕地面積**を利用 等

需給安定対策等の施策の発動基準

【野菜・果実の生産出荷安定対策】
 需給調整の発動基準の算定に青果
 物卸売市場調査の**青果物の卸売
 数量・卸売価格**を利用 等

国の財政支出の算定根拠

【経営対策】
 対象品目の交付金単価の算定に農
 業経営統計調査の**生産費**や作物
 統計調査の**単収**を利用
 【地方交付税】
 基準財政需要額の算定に農林業
 センサスの**農家数**等を利用 等

農林業センサス・漁業センサス